

編集後記

生涯教育講座に島根大学医学部から2編寄稿いただきました。病理学講座丸山教授の「病理診断の変化」では、世界的な傾向である病理解剖数の減少が島根大学でも顕著で、これには画像診断、内視鏡診断及び生検での病理診断精度の向上など多くの要因があるが、全身臓器の病理学的検索、臨床病理検討会の意義を若い医師に理解してもらおう努力が必要とコメントされている。がんの病理診断も分子標的薬の登場により、従来の組織分類に加えて遺伝子プロファイリングに基づく分類が重視され、最近では次世代シーケンサーによる遺伝子パネル検査が注目される中で、パラフィンブロックから腫瘍組織の切り出し、エキスパートパネルへの出席など病理医の役割が拡大している現状、バーチャルスライドの活用等、わかりやすく解説いただき、病理診断の進歩の一端を理解する上で、大いに役立ちました。整形外科講座の内尾教授の「膝スポーツ傷害に対する治療の現状と課題」では、少年サッカー等、スポーツの低年齢化により、こどもの運動器傷害（外傷と障害）が増加していると聞いていましたので、教授が先頭に立って若年者の膝のスポーツ傷害に取り組まれていることに敬意を表します。膝離断性骨軟骨炎に対する培養自家軟骨細胞移植術の確立、骨軟骨骨折を対象とした自家骨製スクリューの開発などは、患者中心の医療を実施する姿勢を明確に示すものとして高く評価されます。その他、腹腔鏡下手術の課題に関する論文、診療科横断的な論文が寄稿され、いずれも興味深い内容でした。専攻医等、若手医師の皆様に島根医学を症例報告など論文作成のトレーニングの場としても活用いただきたいと思います。

(M.I)

島根医学編集委員

児玉和夫，貴谷 光，浅野博雄，大居慎治，沖田旺治，
齊藤洋司，佐藤比登美，小林祥泰，井川幹夫，中島健二，
小阪真二

島根医学

平成31年4月30日発行

発行者 島根県医師会
出雲市湖陵町
編集 編集者 児玉和夫
発行所 松江市学園南2丁目3番11号
有限会社 松陽印刷所